



photo — 渡辺洋一
report — 金井徹郎



一大ムーブメントはすぐそこに!!

GT CARプロデューズが提案するKトラ遊び!!

GT CARプロデューズデモカー



スズキキャリイ (DA63T)

国内新安全基準を満たしたボディ(いわゆる新規格)のDA52Tが、2002年5月のマイナーチェンジでDA63Tに代わったのがこれ。48馬力のK6A搭載でエアコンやパワステ付きもある。チョイスするパーツでここまでカッコ良くなる。

バーソンと田んぼの真ん中の道を激走する、GT CARプロデューズデモカーのキャリイ。なんと申しましょうか、非常にカッコいいですよこれが。サイズ的にはだいぶ違うけど、アメリカントラックを彷彿させるスタイルは、まさに和製スポーツトラック。

このキャリイ、スタイルの最大の特徴は迫力ある低い車高だよね。これはローダウンサスではなく、スバ西浦を中心に各種サーキットイベントを開催し、スポーツ走行のノウハウを持つGT CARプロデューズが開発した。走れる。足まわりを装着しているからなんだ。

その内訳は、フロントは車高調で、リヤはオリジナルショックと強化リーフスプリングという組み合わせ。さらに本気モード人には、リヤ用にリーフスプリングと組み合わせて使用するサスペンションも開発。現在販売中なのはミニキャブとクリッパー用で、キャリイ用は開発も最終段階なのでもうすぐ発売予定。

同社が発売しているパーツは基本的にポルトオン。左ページのパーツを装着することで、いままでノーマルだったKトラも走れるスポーツトラックに激変する。

まずは足まわりを中心に仕上げた上で、それを乗りこなせるようになったら次へとステップアップする。いいかもしれない。

Kトラといえば、農家のオジイちゃんに乗っていたり、配送業で活躍している。働くクルマのイメージ。だけど、よく考えると新車でも買えるし中古の玉数も多く、FRでしかもマニュアルがたくさん存在するクルマなんだ。まさにチューンドベアスには最適でしょう(笑)。

まだまだチューニングの方向性も確立されていないだけに、NAチューニングをやるもよし、ターボチューニングという方法もある。まさに可能性は無限大だよ。

日本独自の進化を遂げたKトラ文化に、ここから一大ムーブメントを起こさうじゃないですか!!